

小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



「ヒライ信」自己笑介

落語に出てくる川柳・狂歌・ことわざシリーズ

「瀬をはやみ岩にせかるる瀧川の割れても末に逢わんとぞ想う」

百人一首 → 崇徳院

大店の若旦那が寝込んでしまい医者が診てもよくなる。病気以外に何か理由がありそうだが、誰にも話さないから手の打ちようもない。だが幼馴染の熊五郎になら理由を話してもいいという。熊さんが確かめてみれば原因は恋煩い。二十日ほど前に上野でお参りした後、茶屋で品のいいお嬢さんの茶袱紗を拾ってあげた。すると、お嬢さんは上の句だけが書かれた短冊を若旦那にそっと渡し去っていった。そこには『背をはやみ 岩にせかるる 瀧川の』と上の句が書いてあり、続く下の句が『割れても末に あはむとぞ思ふ』今は別れてもいつかは一緒になりたい夫婦になりましょうという意味だと若旦那は言う。



若旦那が寝込んだ原因を大旦那に話すと、もしもそのお嬢さんを探してきてくれたら、熊さんが住んでいる長屋を丸ごとやるという。熊さんは、町中を東奔西走するが、どこの誰ともわからない。なんせ手がかりが崇徳院の歌だけ。女房の助言で湯屋や床屋など人の集まる場所に行っても「瀬をはやみ〜」と大声を出してみるがなかなか見つからない。もうだめかとクタクタで入った床屋で恋煩いのお嬢さんのために、どこかの若旦那を探していると言う男にたまたま出会う。男の話によると「瀬をはやみ〜」の歌だけが頼りだと言う。熊「それは俺が探しているお嬢さんだ！連れて行ってくれ！」男「俺が探しているのもおまえさんとこの若旦那だ！」お互いご褒美がかかっているから必死の形相で自分の雇い主の所へ相手を連れて行こうとする。とうとう揉み合っているうちに床屋の鏡を割ってしまい、文句をいう床屋の店主に対し熊さんが

「なあに心配するな、割れても末に買わんとぞ思う」

■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「笑いの分囲気作り」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「新蕎麦」「酒（日本酒）」とかけて

次回は2022年11月7日（月）「七五三」「電池（バッテリー）」